

入野小学校 校長室だより

2014. 11. 20(木) No. 27 文責：芝

これから、こうだったら…

学校と関係のない話から始めて恐縮ですが、いつからかNHKの朝ドラを観るようになってしまいました。たぶん(いや、間違いなく)、妻の影響です。録画して週末にまとめて観るというパターンが続いています。それで、今の「マッサン」を観ている思ったことが…。

少し前に、「父親がアメリカ人、母親は日本人」という人に聞いた話、ご両親の会話は「父→母は英語」「母→父は日本語」なのだからか。ふ～ん、そうなんだ、で、興味本位に「夫婦げんかは？」と質問してみると、あっさり「同じですねえ」と返されました。そんなことを思い出して、エリーとマッサンも『そんなパターン』だったのでは？と思いながら観ているところです。もう一つ、親子の会話についても質問してみました。予想通り「父→子は英語」「母→子は日本語」。だから彼は両方の言葉を不自由なく使えるのです。うらやましい限りですねえ…。

小学校でも英語に親しむ機会は、これからどんどん増えていくはずですが、小学校でも正式に『教科』になる日も近いと思います。理想を言えば、「テストに追われて学ぶような学習」になるのではなく、子どもたちが「生き生きと楽しくコミュニケーション」をとりながら身につけていって欲しいなあと思います。

ちなみに、私たちの世代が習った英語の第一歩は「This is a pen.」、少し進むと疑問文で「Is this a pen?」、見たら分かるろう？そんなに力強く言わなくても、聞かなくても…、という感じ。使うチャンスはあったかなあ…。

子どもたちには、使うチャンスの多い英語に親しんでいって欲しいです。

自由に使えるからだろうね

以前、入野小学校に来て驚いたことの一つに『放課後でも休日でもボールや一輪車が自由に使える』ということがある、とご紹介しました。そういう環境があるからだろうな、と強く感じた姿の一つが下の写真。



これは「放課後でも休日でも」ない、普通の休み時間の様子ですが、一輪車が子どもたちに大人気なのがお分かりいただけると思います。色々な乗り方をしていますから、技術もどんどん上達していることでしょう。

こんなに子どもたちが一輪車に親しむ環境の一つが『放課後でも休日でも自由に使える』なのではないかと思っています。このことは本当に素晴らしいことですが、「素晴らしい」のは「入野小学校」ではなく、それを可能にしている「入野小学校の一人ひとりの子どもたち」です。

片付けに課題が見える時もありますが、「他の学校では(たぶん)していない」、こんな自由に使えるということ、入野小学校みんなの自慢として、これからも大切にしていって欲しいと願っています。

《付け加え》

修理が必要な一輪車もたくさん…。「もう少し私の手が空けば…」と、横目で見ながら日が過ぎていきます。でも、私で出来るかな…？